

心理学実習

(Laboratory work In Psychology)

【責任者/担当者】

〔心 理 学〕 室井 みや 教授

【担当者】

〔心 理 学〕 堀川 雅美 非常勤講師、青木 知史 非常勤講師、中尾 将大 非常勤講師

【目的】

心理学は、言葉、態度、行動、表情などを手がかりにして、科学的な方法を用いて、直接、目にすることのできない心について、多くのことを明らかにする行動の科学である。心理学実習では、心理学における代表的な実験方法、調査、検査を体験し、そこから得られたデータをまとめる作業を通して、心を科学的に理解する方法、論理的な考え方を身につける。また、得られた結果をレポートとしてまとめる作業により、論理的な文章の作成について学ぶ。

【科目キーワード】

「心理学実験(Psychological Experiment)」「心理検査(Psychological Tests)」「論理的思考(Logical Thinking)」「論理的文章作成(Logical Writing)」

【到達目標(アウトカム)】

- ☐ 心を理解する科学的な方法について説明できる。
- ☐ 代表的な心理学の研究方法について説明できる。
- ☐ 代表的な心理検査について説明できる。
- ☐ 科学的方法で得られたデータから、適切に情報を読み取ることができる。
- ☐ 結果を適切にレポートにまとめることができる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーション能力を有している。
- ・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない。
- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している。

【概要ならびに履修方法】

毎回、2 時限連続で、最初に手順を説明した後、一斉に実験、調査、検査を行う。2～7 回目の授業では、3 グループに分かれ、グループごとに異なるテーマで実習を行い、レポートを作成する。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

学習は不要

【成績の評価方法・基準】

単位の修得には、全出席、および期限内にすべてのレポートを提出することが必須である。出席、実習中の態度 50%、レポートの内容 50%。ただし、履修態度が不良の場合、出席状況、レポートの出来にかかわらず、不合格となる。再試験は実施しない。

【学生への助言】

1～2 回ごとに教室が変わるので、注意すること。指示を守り、まじめに実習に取り組み、レポートを作成すること。

【フィードバック方針】

いくつかのレポートについて、授業内にフィードバックを行う。

【オフィスアワー】

曜日: 月～金、時間帯: 11:40～12:40

【受講のルール、注意事項、その他】

実習の進行を妨げるので遅刻しないようにすること。やむを得ない理由で欠席する場合は、実習の進行を妨げないよう、責任者まで早急に相談に来ること。

【教科書】

なし

【参考書】

「心理学実験・研究レポートの書き方 学生のための初歩から卒論まで」細江達郎、細越久美子
訳(北大路書房)1996 年

【連絡先】

教育研究棟 5 階 心理学 教員室